

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第158号

令和5年3月14日

発行=四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

## 3/4 第9回楠正行シンポジウム盛大に開催♡

# スクリーン映像紙芝居・絵本で届ける正行の生涯

## 扇谷の基調報告「外国人・朱舜水の見た小楠公像とは」

第9回楠正行シンポジウムは、3月4日（土）午後2時から、四條畷市立教育文化センター2階大ホールを会場に、募集定員の50名を上回る会場いっぱいの参加者を集めて開催しました。

司会は、上浦紀代美が担当し、冒頭、開会のあいさつに立った扇谷は、「第9回を迎え、初めて会員手作りのシンポジウムとなりました。また、本日は大変うれしいことに中学生3名の参加があることと、遠く兵庫県や大阪府内各所から楠氏ゆかりの団体関係者も駆けつけていただきました。」と、お礼の言葉を述べ開会しました。

公務多忙の中ご臨席をいただきました来賓をご代表いただき、四條畷市東市長にお祝辞を頂戴しました。（右写真）東市長は、「今日、中学生の参加のあることは大変うれしいです。私も中学生の頃旅行で行った長野で、四條畷から来ました、と応えると、『あの小楠公さんの四條畷ですね。』と言われ、全国で知られる武将、正行なんだと思ったことを覚えています。」と、思い出話を交えて、盛会を喜んでいただきました。

第1部は、「スクリーン映像紙芝居&絵本」です。

紙芝居の第1弾は、昭和19



年に制作された原作「楠公父子」を扇谷が補作し、カラー映像化し「正成、正行の生涯」として発表したものです。青木繁のナレーション（左下写真）、川口敦子のピアノ演奏（右写真）で始まりました。



紙芝居の第2弾は、私たちの会と大阪電気通信大学の皆さんとのコラボで制作した「くすのきまさつらかるた」の絵札を使った「楠正行の生涯」です。正行のほま生涯にわたる事績を盛り込んだ内容で、ナレーションは国府良三が担当しました。

続いて絵本の朗読です。この絵本も、大阪電気通信大学とのコラ



ボで制作したもので、6分冊1巻本です。紙芝居との重複を避け、「学び」「恋」「情け」の3分冊のスクリーン映像絵本となりました。（右下写真）

ナレーションは、学び「まさつらくん」を担当したのが前田喜久子、恋「正行恋物語」が川口敦子、情け「渡

辺橋の美談」が木村素子の3人でした。

扇谷は、スクリーン映像紙芝居と絵本の、パソコン・



プロジェクター操作を担当し、会場の前から参加者の皆様の表情を伺っていましたが、ほぼ全員が前のスクリーンにくぎ付け状態で、十分堪能していただいたのではないかと感じました。(上写真)

途中、公務ご繁多の中、わざわざ河内長野市の島田市長が駆けつけてくださいましたので、2部開会前にご挨拶をいただきました。(右写真)



島田市長は、2025年、ご自身が会長として「楠公さん」NHK大河ドラマ誘致に全国67自治体が一つになって取り組んでいる活動の一端をご紹介いただくとともに、署名等へのご協力を呼びかけていただきました。

第2部は、「外国人の見た小楠公像」と題して、扇谷が平成27年3月16日について発見しました朱舜水作「楠正行像賛」の成立背景や、像賛148文字の解釈を通じて、朱舜水の正行像を解説しました。

報告の骨子は、朱舜水は、安東省庵の三忠伝を百読して正成・正行を学び、正行を「中国紀元前700年、九世の仇を復した齊の襄公に喩え、紀元前450年、信念を貫き通して自決した豫讓に喩え、紀元前500年、楚を救った忠臣、申胥に喩え、武器を枕に安眠をしなかったと讃え、そして最後、1200年代、中国で千年にわたる名句となっている『零丁洋を過ぐ』を残した状元宰相文天祥に匹敵する人物だ、とこれら中国の偉人らに喩え、正行に最大限の賛文を贈った、というものでした。

参加した中学生も、最後まで残って扇谷の基調報告を聞いてくれました。感謝です！

閉会挨拶は、土井利勝企画委員から申し上げ、第9回楠正行シンポジウムは無事終了しました。

手作りの企画で、会員一同、誰もが不安と期待が錯綜する中で緊張感漂うシンポジウムでしたが、受付や場内整理等裏方に回ったスタッフも含め、全員一丸となつての取り組みとなりました。

36人の方にアンケートをご記入いただきましたが、「最初の公演、すごく分かりやすかったです。」(15歳・

男性)、「今日のシンポジウムはとても感動しました。声をかけていただいた扇谷さんにとっても感謝しています。正行の生涯も知れました。ありがとうございました。」

(中学生・男性)、「すべてが良かったです。感動をありがとうございます。」(61歳以上、男性)、「全員各位の準備、説明の調子……。非常に感銘を受けました。」

(61歳以上・男性)、「正行の生涯大変よく分かりました。扇谷さんの講演、あっという間で、面白い視点でした。もっと知りたく思いました。」(31~60、女性)等と、おおむね好評をいただきました。

また、大河ドラマ誘致の署名にも、24名の方にご協力をいただきました。ありがとうございました。



↑ 写真上・中 会場の風景 下:受付の様子

(文責：四條畷楠正行の会代表 扇谷昭)